

# 総会特集

## 平成 30 年度 通常総会

### SALON 編集部

平成 30 年度（一社）神奈川県建築士会通常総会は、平成 30 年 5 月 30 日（水）午後 2 時から神奈川県建設会館 2 階講堂において、1,182 名（総会出席 73 名、委任状 1,109 名）の出席を得て開催されました。

総会に先立ち、関東甲信越建築士会ブロック会 平成 29 年度優良建築物の神奈川県受賞作品の表彰が行われました。受賞作品は『障害者支援施設「恵和青年寮」及び「恵和館」』、受賞者は株式会社金子設計・稲毛恒男さんです。なお、受賞作品は、第 61 回神奈川建築コンクールの最優秀作品でもあります。



表彰される稲毛氏

総会の冒頭、金子修司会長は「会員のみなさんとともに引き続き会員の増強に力を入れるとともに、本会にずっと属していただくような活力と魅力ある建築士会への充実を図っていきたい」旨の開会の挨拶を行いました。

本年度総会は、議長に原昌吾県央支部長、議事録署名人に東二郎理事、長井邦夫監事の 2 名が選任され、定款に基づき総会が有効に開催されることを確認したのち、議事に入りました。



議長を務める原昌吾氏

第 1 号議案である平成 29 年度事業報告については、今年度総会では各支部の活動については須藤亮二専務

理事から、また各委員会についてはそれぞれの委員長を兼ねる担当理事（女性委員会は委員長）から事業報告がなされました。

引き続き審議された第 2 号議案は、平成 29 年度収入・支出決算報告については須藤専務理事から、平成 29 年度の決算監査報告については監事を代表して小川嘉一監事から報告がありました。

第 1 号議案、第 2 号議案とも、すべて原案通り承認されています。

続いて報告事項に入り、平成 30 年度事業計画、平成 30 年度収入・支出予算について須藤専務理事から報告がありました。

平成 30 年度事業計画の重点事業としては、「1 シニア事業の実施、検討」として同好会活動とともに、新たなシニア向け講習会を実施すること、「2 相談事業の取り組み」として平成 29 年度の取り組みを踏まえてワンストップ相談体制の試行や相談員の活用など、「3 会員増強」としてお試し会員制度の強化、会員増強支部支援交付金の創設（100,000 円/支部）、既存住宅インスペクション等、既存会員のビジネスチャンス拡大につながる事業の紹介などが挙げられています。



総会会場の建設会館講堂

最後に総会参加会員からの活発な質疑応答、意見等が出され、予定時間を超過しての熱心な議論が交わされました。

総会に引き続き、16 時過ぎから横浜メディアセンタービル 1 階のハーバーズ・ダイニングで平成 30 年度通常総会懇親会が行われ、各関係団体からのご来賓をいただくなか、芝京子総務企画委員長の司会進行により、85 名の参加をもって賑やかに開催されました。

来賓を代表して、神奈川県県土整備部 庄司博之住宅部長及び横浜市 坂和伸賢技監兼建築局長からご挨拶をいただき、ご挨拶のなかで庄司部長からは「なりすまし建築士」に関連した建築士資格確認への注意喚起について、また坂和局長からは、年間 1 万 7 千人を超えるヒートショック死を例に、住宅内環境の整備推進の重要性についてお話をいただきました。

## 横須賀支部 平成 30 年度通常総会

小林 匠

5月18日金曜日、建築士会横須賀支部の通常総会が例年と同様にヴェルクよこすかにて開催されました。

総会は副支部長の開会のことばの後、物故会員への黙祷を行いました。心から哀悼の意を捧げます。

支部長あいさつでは、周囲に建築士会の活動を理解していただき、会員をより多く増やしていく年にしたいと抱負を述べられました。総会進行に際しては、議長選出の後、異議等も無く各議案が承認され、御来賓紹介と御祝辞の後、閉会となりました。

総会後の懇親会では、多くの御来賓の方々から横須



県の庄司部長からご挨拶

(一社)神奈川県建築士事務所協会の白井勇会長の乾杯で始まった懇親会では、新たに会員となられた新入会員の紹介とひとこと、また賛助会員の方々の紹介とひとことを交え、各会員相互の和やかな談笑と懇談のうちに進み、18時の(公社)日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会 田井勝馬副代表の中締めまで、和気藹々としたひと時を過ごすことができました。



横須賀支部総会 事業計画慎重審議中

賀支部への励ましのお言葉をいただきました。新入会員の紹介もありました。懇親会の名の通り、お互いにより親しみを深めることができました。



新入会員を支部長が紹介するコーナー

### 神奈川県建築士会の会員数

	会員数
正会員	2,665
準会員	7
賛助会員	56
特別会員	11
合計	2,739

(H30.3.31 現在)



懇親会風景

平成 30 年度通常総会も滞ることなく幕を閉じました。総会にご尽力された方々、お力添えいただきました方々、ご出席されました方々、みなさまに感謝申し上げます。



# 総会特集

## 中支部 更なる活性化へ

田中 敦史

5月19日、平成30年度中支部通常総会が平塚市民活動センターにて開催されました。開催に先立ち、長年中支部の活動のご協力いただきながらも昨年逝去された土井元監事に黙とうを行い、これまでの功績に感謝の気持ち捧げました。その後矢野支部長から今後の支部の展望や会員皆さまへのご協力への感謝とともに、更なる活性化、会員増強への意気込み等のお話があり、私も役員の一員として支部長を支えていく気持ちがこれまで以上に高まりました。総会出席者はやや少ない17名となりましたが、それでも若い新会員に出席いただけた事は少なからず明るい展望が見えたように思います。また来賓には長田副会長にお越しいただきご挨拶をいただきました。



矢野支部長の挨拶

総会終了後は「建築物省エネ法の概要と支援制度」と銘打った講習会を湘南建築センターの高橋様をお招きし行いました。さすがに旬な話題のため支部外の方にもご参加いただき21名の参加者の元、約1時間半の講習会は盛況でした。特に講義後の質疑では様々な意見や質問が飛び交い、大変充実した講習会になったように思います。

その後はやはり会員間の交流を図るために不可欠な懇親会が、会場近くのイタリアンレストラン「Buroso (ブロッソ)」にて執り行われ、大いに盛り上がりました。楽しくも好奇心旺盛な中支部は益々飛躍します！！



懇親会の様子

## 小田原地方支部 充実した運営に期待

猪股 正雄

平成30年5月12日(土)開催されました。

### 第一部・総会にて 13:30~15:00

29年度会務・事業・会計報告、30年度事業計画・予算、全てにおいて審議され承認を得て終了しました。今年も長田善樹副会長様に、ご臨席いただき御祝辞を賜りまして有難う御座いました。特に記したい事は「応急危険度判定員の派遣について」行政と調印され、建築士会から派遣する事で市民の安心と安全につながり、建築士への期待とニーズが高まる事を期待したいと思っています。役員改選においては数名が退任され、前年より少ない役員で支部運営をする事に成り、苦勞されると思いますが、充実した運営がされる事と期待しております。

### 第二部・講演会にて 15:30~16:30

社会福祉協議会・袴田はる江氏による「福祉介護からのアドバイス(人にやさしい住まい)」を開催しました。講演の中で車椅子体験が有り、乗る体験では車いすからの視線が1.5m程で通常より低く、地面が思ったより身近に感じ、少ない段差も大きく見え、見え方の違いに驚かされました。又、押す体験では乗り手との会話のやり取りが重要な事を実感しました。押し始め、止まる時、段差の乗り越え等々、乗り手に大きな負担がかかります。その都度会話をして乗り手の心構えを促す事で負担を軽減して不安解消につながる事の事です。多様な方々との多くの会話の中から「人にやさしい住まい」が見つかるのではないのでしょうか。

### 第三部・懇親会にて 17:00~

総会出席者の殆どの方が参加され、総会・支部事業等についての意見や質問を率直に話し合いました。楽しみにしている事業に対する要望も多く聞かれました。年に一度お会いする方も居られ近況報告など楽しい時間を過ごしました。今年も支部活動に携わることが出来たことに感謝の思いです。



第二部・講習会での車椅子体験

## 川崎支部 平成30年度通常総会

宇留間 雅彦

川崎支部の第56回通常総会が平成30年5月11日（金）川崎フロンティアビルにて開催されました。

第一部では大川原副支部長の司会進行のもと、金子支部長が議長として昨年度及び今年度の会務・事業報告と昨年度の会計報告、今年度予算について滞りなく進み、承認されました。

第二部では「色彩と景観」をテーマに、㈱カラールランニングセンター代表取締役で、武蔵野美術大学講師の田邊学氏をお招きし、ご講演頂きました。田邊先生は、10年間、川崎市都市景観審議会の委員を務められ、景観法に基づく景観計画の策定や川崎、小杉、新川崎などの色彩に係る景観形成基準の策定において、ご尽力されました。また、具体の施設では、王禅寺ゴミ処理センター、溝口南口ペDESTリアンデッキ、学校、市営住宅などの色彩デザインの作成に貢献されました。現在も色彩に係る分野で、幅広く活躍されています。

講演では、「色には意味があり、色はイメージを伝える」「色彩の3属性と景観のかかわり」「色彩選定のプロセスと景観への配慮」など、詳しく解説して頂きました。また、地域本来の色の確認、地域のルールの確認、周辺住民、関係者、ユーザーなどの意向を確認する必要があることや、これらを踏まえて選定する際に、失敗しない色彩の範囲は、色相5YRから5Y、明度2から8、彩度3以下であることなどを解説して頂きました。日頃から建築士として業務を行っている会員の皆様にとって、非常に参考になる講演会だったと感じました。



講演会後の集合写真

第三部の懇親会は隣室に会場を移し、講師の田邊先生をはじめ、ご来賓の方々や会員との交流を深める機会になり、今後の川崎支部の会員増強の取り組みが重要なことも、再認識いたしました。

## 相模原支部 定期総会と懇親会と

山口 義弘

平成30年5月24日（木）午後3時30分より、相模原支部の定期総会が行われました。この日は、午後2時ころから雷が鳴り、雨がポツリポツリと降り出してきましたが、総会開始の午後3時30分ころには雨もあがり、爽快な青空に変わっていました。会場は、昨年と同じ、相模原市中央区にあります「プロミティふちのべ」でした。JR淵野辺駅から徒歩5分程度の便利な場所です。



会場：プロミティふちのべ 長田喜樹副会長の挨拶

定期総会は、来賓に一般社団法人 神奈川県建築士会の副会長であります長田喜樹様をお迎えし、相模原支部の会員13名（委任63名）が参加して行われました。

定期総会は、各議案を各担当者が説明し、滞りなく終了しました。その後「支部PRコーナー」として、この夏に開催されるイベントを内沼良和支部長より紹介がありました。

8/18(土) 恒例 活動交流会（バーベキュー大会）

場所：上大島キャンプ場

8/29(水) 建築士定期講習

ユニコムプラザさがみはら (bono 相模大野内)

9/1(土)～9/2(日) 一泊二日のバスハイク

(相模原支部からも大勢参加しよう！ということでした。主催は福利厚生委員会です。)



定期総会のような

和やかな懇親会

定期総会終了後は、会場を移動し、懇親会が行われました。神奈川県建築士事務所協会相模原支部の支部長であります佐藤真吾様、相模原市設計協同組合の副理事長であります永田健治様もお祝いに駆けつけて下さいました。終始和やかな雰囲気の中、出席者の懇親を深めることができました。



# 総会特集

## 県央支部 講演会と第44回総会

長谷川 博亮

平成30年5月18日(金)16時30分からオークラフロンティアホテル海老名にて3部構成で開催された。

第一部 C L Tの魅力と実現方法(講演会)

第二部 通常総会

第三部 懇親会

まずは講演会については、CLTとは何かから始まる。私自身、直接建設業に携わっていないこともあり恥ずかしながらその存在を知らなかったのである。CLT(Cross Laminated Timberの略)とは、ひき板を横に並べて層ごとに直交させて接着した大判パネルのことで樹種はスギ、ヒノキが主でヨーロッパでは25年ほどの実績を持っている建材である。詳しくはwebでということになるが工法は壁式であったり、軸組と併用して組むこともできる。また製材加工するのに間伐材を使用することもできるとあり近年の衰退する林業にも一妙の光を照らす存在にもなりそうであると感じた。

続いて通常総会については、会員数171名のうち出席者22名、委任状65名で支部規定により支部員数の5分の1以上に達していることから予定どおり開催された。第1号議案から第5号議案までを採決し無事審議を通過した。その中であえてふれるとしたら、平成29年度支部事業・会務報告から昨年11月18日に県央支部主催で神奈川県建築士会の活動交流会を開催し、人工知能(AI)など今話題となっていることを取り上げ盛況に終わったことを紹介できたことである。また御来賓の挨拶で長田副会長から現状の会員数の減少傾向にあることと会員増強の施策について語られた。最後に懇親会では、初参加の方と年に1度しか会えない方との交流ができ、来年も会いましょうという気持ちと共に締めくくった。



通常総会にて支部長挨拶

## 湘南支部 新入会員を迎えて総会

湯本 敦

湘南支部第45回通常総会が5月18日(金)、藤沢商工会館(ミナパーク)で開催されました。出席者数は42名、第一部が勉強会、第二部が総会、第三部が懇親会のプログラムで進められました。

第一部の勉強会では、「省エネルギー制度にかかる最近の動きなどについて」をテーマに、(一財)神奈川県建築安全協会の丹治様よりご講演をいただきました。



省エネ勉強会

建築物省エネ法について、平成28年4月の誘導措置及び平成29年4月施行の規制措置の施行、今後も対象となる建築物や基準の見直しがある等の内容に、制度をその都度よく理解しておく必要があると感じました。

第二部の通常総会では、佐藤支部長挨拶があった後、平成29年度の事業、会計、監査に関する報告及び平成30年度の事業計画案、予算案が



多くの会員で満席の総会

滞りなく承認されました。今年度案において、会員増強活動の推進への取組をより強化することが伝わってきます。



須藤専務理事のご挨拶

議事終了後の来賓挨拶では、本会専務理事の須藤様より、滞りなく議事が進行したことへのお祝い及び支部活動へのエールをいただきました。

第三部の懇親会は、津田相談役挨拶に始まり、和やかな雰囲気で行われました。今後も湘南支部の活動がより一層活発になるよう祈念しての閉会となりました。



新入会員が3名参加した懇親会

# 総会特集

## 横浜支部 平成 30 年度通常総会

白井 崇雄

横浜支部の第 25 回通常総会は平成 30 年 5 月 26 日(土)14:00～ワークピア横浜にて開催。第一部では小笠原総会委員長の司会のもと、渡邊支部長が議長として平成 29 年度活動報告、収支決算、また平成 30 年度活動計画、収支予算案、役員改選と説明・審議され、滞りなく承認されました。

第二部では、総会記念講演会として神奈川大学の石田敏明教授を講師としてお迎えして「住宅設計のプロセスとプレゼンテーション」をテーマにご講演頂きました。石田先生は 1973-81 年まで伊東豊雄建築設計事務所にて在籍し、その後 82 年に石田敏明建築設計事務所を設立しておられます。大学時代は構造系だったという石田教授は、木造だけでは足りない耐力を丸鋼のブレースを入れる、風で決まる建物の 2×4 の柱にはフラットバーを内蔵する、更には鋼板による壁式構造だけで住宅の構造を成り立たせてしまうなど、木造に鉄骨を組み込むことで、構造に対する固定観念がないかのようにあっさり解決してみせます。

また、多くの時間をかけて実験的に自然エネルギーを使った計画を行っていますが、これは残念ながら実現はしなかったようですが、後に北海道にもかかわらず大きなガラス面を持ちパッシブソーラーが取り入れられた「NOS-h」に生きてきます。

この講演会では様々な特徴的な住宅が紹介されましたが、実はこれらの住宅設計を実現させているのは個性的な理解ある施主の存在が大きいのと感じました。日頃から建築士として業務をしている会員にとっても刺激になる講演会だったと感じました。

第三部の懇親会では、地下に会場を移し、講師の石田先生をはじめ、ご来賓の方々や会員など 60 名近くの方にご参加頂きました。会場が狭く感じるほど多数の方にご参加頂き、交流を深める場となりました。



講師の石田敏明教授

## 県庁職域支部 支部総会と懇親会

近藤 均

県庁職域支部は総勢 146 名が属しており、神奈川県、神奈川県住宅供給公社、(一社)かながわ土地建物保全協会に在籍している者及びその O B で構成されています。

去る 5 月 15 日にクルーズ・クルーズ YOKOHAMA にて、平成 30 年度通常総会及び懇親会を滞りなく、かつ盛大に開催しました。



総会のようす

庄司支部長からの挨拶では、建築士会の行事に多数参加してもらい、それにより交流を広げ、多くのものを得てもらうことが会の魅力であり、そこを強化することにより、新規会員の獲得にもつなげたいとの話がありました。

続いて、本会からご臨席いただいた長田副会長より、建築士会の取り組みなどのコメントを含めたご挨拶と乾杯のご発声を頂戴し、和やかな懇談が開幕しました。

会合においては、各委員会の会員から事業活動報告がされるとともに、5 月に発行した支部だよりを配布し、支部での親睦を深めていきました。

若手、中堅からベテランの O B まで、歓談の輪が尽きないところ、塩川副支部長による中締めをもって、懇親会も無事終了となりました。



委員会の活動事業報告のようす



けんちくラーニング・モア ～ぷろろーぐ～

県央支部 奈良直史

毎年2月に開催している建築士試験合格者セミナー「けんちくラーニングのススメ」において「今さら聞けない確認申請講座」を企画・実施しており、そこで学んだことを実務に落としこむ場として、「モア」と題した続編を一年間にわたって継続的に開講しています。合格者セミナーの続編という扱いなので、前年度試験合格者のみなさまにも多くご参加をいただいております

確認申請講座からの続編なので比較的法規的な話は多く、今回は年度のスタート「ぷろろーぐ」として建築基準法の前身である市街地建築物法(大正8年(1919)法律第37号)まで遡り、同法が制定されてから現在までの、いわゆる大地震、或いは建築を取り巻く事件や環境変化等を織り交ぜながら、建築基準法改正の沿革を比較し、時代が求めている安全とは何なのか?を耐震性能に焦点を絞って解説いただき、参加者のみなさんは2時間、熱心に聞き入っていました。



▲山中講師の熱ある講義に参加者タジタジ

この「けんちくラーニング・モア」については本会会員の皆様にもご案内をしておりますが、常に「あなたは30年後生き残れますか?」というメッセージを添えてお届けしています。例えば2020年問題(省エネ法の義務化)、2030年問題(ゼロエネルギー化)、施行時期がわからない4号特例撤廃など、更なる変革に立ち向かうために、新たな思考が求められているという若手組織の青年委員会ならではの発想で、受け身ではなく、『我々、若手(=青年委員)が知りたいことを学ぶ』というスタンスでこの講義は準備されています。

この講義は、年度初めからではなくとも、途中から参加されても困らないようにしていますので、若手会員の方は一度ご参加ください。そして、この講義を共につくって、自己研鑽を積んで参りましょう。

旧一条恵観山荘見学会

湘南支部 山口 省一

以前この街道を通ると端正な藁葺屋根が木間越に見られましたが、如何なる建物であるかと、気になっていました。このたび支部の見学会で、当建物が今では観光施設として、一般公開されていることを知りました。ガイドによると、雅な文化が京都から鎌倉へとあるので、この建物の時代背景と由緒を探ることにしてみました。一条恵観山荘と呼ばれていますが、恵観という方は後陽成天皇の第九皇子で、まわりには、兄である第三皇子の後水尾天皇(修学院離宮造営)や後陽成天皇の異母弟で八条宮智仁親王(桂離宮造営)等の方々が居られ、多くの離宮・別邸が営まれました。戦国の世が終わり家康による禁中並びに公家諸法度が施され、禁中に関わる方々には窮屈な時代となっていたようです。鬱屈された心をふり払うように公家たちによる別邸が次々に営まれ、公家文化が一気に花ひらいた時代でもありました。

一条恵観山荘はこのように時に、京都の北、西加茂の地に営まれた山荘であり当初の敷地は2万坪にも及ぶ広大なものであったようです。本殿のほか茶屋は田舎屋風に造られました。その茶屋が、縁あって鎌倉の地に移され今、まのあたりにしている建物なのです。田舎家風といえ書院様式が基本にあるようで、凛とした、公家文化の一端を伺い知ることが出来る、貴重な建物であると思いました。鎌倉に移設されるに当たっては堀口捨巳博士(数寄屋の権威)が監修されたそうです。庭も金森宗和好みで復元されているようですが、如何せんこの施設全体の敷地が狭くせつかくの茶屋座敷から庭への眺めも隣接する新造の建物により遮られ、滑川沿いの山裾に届かず、茶屋が意図している大切なものが損なわれているのではないかと残念に思いました。この建物のように庭園と建物が一体となった景観保存の難しさを感じると共に、それでも建物が生かされ移築保存されたことは、充分よかったと思う見学会でした。



庭園で記念撮影(5月20日)

## 魅力ある和の空間 &amp; 3月女性委員会

女性委員 清水 麻紀

魅力ある和の空間見学会を3月の委員会と合わせて行ないました。11日(日)快晴の見学日和に三溪園で集合し、同行する三溪園のボランティアスタッフには主に建物の説明を依頼しました。臨春閣、聴秋閣、と経由し旧天瑞寺寿塔覆堂で建物の目的を質問され、それは豊臣秀吉が母のために建てた寿塔を覆うためとあり、改めて秀吉が作ったのかと装飾もじっくり拝見しました。白川郷の建物 矢筈原家住宅はかやぶき屋根の補作業をみました。うららかな日差しとは対照的に大きな建物の内部は寒気が残り、囲炉裏の火は、本来は土間をあたため建物全体を乾燥させ、高温の上昇空気は屋根を長持ちさせる効果があるのですが、屋根の修理作業中のためか火はくすぶっているだけに煙く内部はひどく湿っていて底冷えしていました。

昼食は待春軒で三溪そばなどをいただきました。



(臨春閣前での記念撮影)

旧柳下邸(根岸なつかし公園)南向き斜面にひな壇のように鎮座している豪邸で横浜市指定有形文化財となっています。洋館と和館が一体となった建築となっており、蔵も付属しています。季節毎に飾り物が展示され、3月はお雛様が飾られていました。鍾馗様や手まりお手玉なども飾られ、いつもある調度などと合わせて昭和の暮らしがうかがえる品物が多々あります。映画トトロに出てくるお風呂がそのままの形であったのには驚きました。

柳下邸から歩いて3分くらいの場所にある金子設計事務所 会議室にて委員会を行ないました。窓など面白く拝見し手早く議事を取りまとめ、17時には解散しました。委員会としては盛りだくさんな内容となりました。

## 女性委員会の今後、およびアンケート配布

女性委員会はいつでも会員を募集しています。メンバーの中に子育て中の方もいますが、女性は大抵いつも忙しいためか、だんだん会社勤めの方が増えてきました。そこで、多様な仲間が必要ということで、日中少し活動できるよという方も参加できるような活動も組み込んでお互いに有意義な時間がすごせたらということをご提案しています。その一環として、アンケートを作成し女性会員の方に回答のお願いをしています。

私たちは月初の水曜日の夕方 18:30 から委員会を行い、たまに場所や時間を変え、日中の委員会あるいは勉強会を行なっています。

また3月の委員会は今回のレポートのように見学会のコースとしてコーディネートすることもあります。発端は他県からの依頼で魅力ある和の空間を提案するというご依頼で、かねてから話しがあり、実際に見学したいということで企画されました。具体的には2月の委員会の中で副委員長竹島氏の職場である金子設計事務所が横浜市磯子区にある、横浜市指定有形文化財の旧柳下邸を見学するのに大変近く、会議室を借りても良いとのことでご実現しました。

女性委員会の(女性)という部分の名前に気が引けるという方もいると思いますが、たとえば建設小町のように気の利いたネーミングもなく、女性が企画し活動する委員会ということで20年以上継続し、建築士会で気軽に活動しやすい場を提供しています。

次回大成建設技術センター見学会の案内。メンバーの職場が予約制で見学できるしきみがあるということで、9月12日に予約をしました。もちろん女性に限らず興味ある方は一緒に見学はいかがですか。これからも企画しますので、よろしくお願いします。



(柳下邸前にて撮影)



ナナメ塾 「Yokohama ラーニング」  
～横浜地方気象台リターンズ～

中支部 矢野 高

通常総会日の午前中、横浜近辺の建築やそれに付帯する事柄を学ぶイベント「よこはまラーニング」今年も5月30日（水）に開催しました。

今回訪れたのは山手地区になる「横浜地方気象台」。(中区山手町 99 番地)です。市指定歴史的建造物(2003年)、指定有形文化財(2005年)に登録された由緒ある建築です。関東大震災の復興事業の一つとして1927(昭和2年)に竣工し、当時は神奈川県測候所という名で、その後国の管轄になっています。21世紀となり、耐震性の問題や手狭なこともあり、リニューアルと既存建物のイメージを継いだ新しい建屋を増築。安藤忠雄建築研究所の手により設計され、2009年に今の形となりました。

神奈川県のお桜の標本木もこの気象台にあります。

実はリニューアル前の気象台を前身の「Yokohama 建築散歩」の第一回で2004年に見学しており、14年ぶりの訪問となりました。当時、私は事務所を立ち上げて2カ月の駆け出し。仕事の息抜きも兼ねての参加でありました当時の記憶を反芻しつつ、気象台への坂道を、汗をかきつつ登りました。道路と敷地の高低差処理は、山手地区で多用されているブラフ積み擁壁が残されて、景観に配慮しています。庁舎内では職員の方の丁寧な解説を受け、「晴れ」「くもり」の判断法など、IT, ICT, IoT…の時代とはいうものの、

人の判断力や経験則が、自然を相手の測候という作業では、多く求められるものです。それは、建築という仕事にも通じる部分ではないでしょうか。

そう、建物の設計は自然や気候とは不可分ですから。

最後になりましたが、当日ご参加の皆様と、解説をしていただきました気象台の島貴様に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



(見学会終了後の集合写真)

まちづくり団体としてのとりくみ

中支部 山口明宏

私は平成12年「大磯まちづくり会議」として登録、現在副会長として活動しています。大磯町には明治期以降伊藤博文から吉田茂まで8人の総理大臣が住み、三井、三菱、安田など数多くの政財界の邸宅が現存しています。その中で、知名度は低いもののぜひ知ってほしい建物や消失した建物から「大磯建物語」と題して小冊子にまとめています。その中からいくつかご紹介いたします。今後も随時増刷して行く予定です。

①大磯駅前洋館(旧木下家別邸)



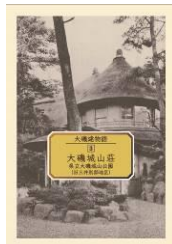
日本に現存する最古の2×4住宅である。設計は小笹三郎と推察される。彼は日本人として初めて米国で設計業務をする。彼が設計した米国シアトルのパナマホテルは2015年4月に日本人設計者では初めて米国の国宝に指定された。

②澤田美喜記念館(隠れキリシタン資料館)



日本初 認定第1号の免震構造建築である。設計は三宅敏朗により「ノアの箱船」をイメージした長六角形で舟の形をしている。ここには澤田美喜が40年にわたって蒐集した、江戸時代の隠れキリシタンの遺物や関連する品々が展示されている。

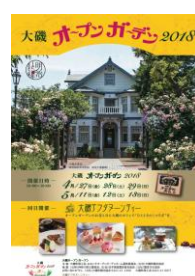
③大磯城山荘(旧三井別邸地区)



歴史は三井十一家の惣領家(北家)の当主三井八郎右衛門高棟が茅葺の別荘を明治31年に建てたことで始まる。設計は久米権九郎である。日光金谷ホテル、軽井沢万平ホテルは現存するが、これは消失した。ここには国宝の茶室「如庵」

もあった。

■大磯オープンガーデン2018(4・5月開催)



今年は明治150年、大磯町は神奈川県「邸園文化圏再生構想」のもと邸宅・庭園の保全活用に取り組み、歴史的建造物や庭園、個人の庭などの公開を目的に実施してきた。今年は「明治記念大磯邸園(仮称)」が整備される予定だ。